

1 ジェンダーからみる学生生活

田中 麻貴

はじめに

私は今回、社会調査実習の「社会学部卒業生アンケート」において、私と同じ世代の男女でどのように違いがあるのかという事に興味を持った。現在、就職活動をする上で、女性は早い段階から真面目にコツコツとやる人が多いが、マニュアルに沿ってやっているように思える。また男性は総合職がほとんどだが、最近是一般職もいる。他にも、アルバイトは女性の方が決まりやすく、就職活動は男性の方が決まりやすい。このように、女性と男性ではたくさんの方が異なっているという様々な情報を耳にすることがあった。

このレポートでは3部構成に分け、女性と男性とでは、就職活動をする前の大学入学前、大学学生時代、そして大学卒業後の進路においてどのような違いがあるのか。またそれは性別といったものが影響しているのかということ、アンケートデータを基に分析していく。

大学入学前では、大学選択において何を基準に選んでいるのか。それは現役・浪人、または高校時代の成績であるのか、自宅から通える距離であるのかなどを詳しく分析していく。大学学生時代では大学学生中にどのようなことをやってきたのか、大学時代のGPAなど大学学生時代にすることでどのような違いがあるか分析していく。そして最後に大学卒業後の進路ではどのような企業に就職していくのか、また大学卒業後の満足度、同志社大学への愛着度などについても触れながら分析していきたいと思う。

1.1 大学入学前

大学に入学する前、女性と男性では入学時にどのような違いがあるのか？まず、性別と現役浪人別のクロス集計をとってみる。（なお、現浪別で一浪と二浪以上は統合して処理した。）

q1[性別] と q5[現役・浪人の別] のクロス表

			q5[現役・浪人の別]		
			現役	浪人	合計
q1[性別]	男性	度数	96	83	179
		q1[性別] の %	53.6%	46.4%	100.0%
	女性	度数	163	39	202
		q1[性別] の %	80.7%	19.3%	100.0%
合計		度数	259	122	381
		q1[性別] の %	68.0%	32.0%	100.0%

p<.001

現役・浪人別で見ると、男性の方が浪人経験者が女性よりも多かった。これは、はじめに記した女性の方がコツコツと物事に取り組むからなのか、指定校推薦・内部推薦が多いのかそれとも、高校生時代に成績が

良かったのか？また第一志望でそれ以外であるか、第一志望で自宅から通える距離にあるからなのかなど性別での違いとともに何が影響しているのかを検証していく。

次に、志望順位別に、性別と現浪別のクロス集計をみる。

q1[性別] と q5[現役・浪人の別] と q4[志望順位] のクロス表

q4[志望順位]		q1[性別]		q5[現役・浪人の別]		合計
				現役	浪人	
第一志望	男性	度数	69	29	98	
		q1[性別] の %	70.4%	29.6%	100.0%	
	女性	度数	113	16	129	
		q1[性別] の %	87.6%	12.4%	100.0%	
	合計	度数	182	45	227	
		q1[性別] の %	80.2%	19.8%	100.0%	
第一志望以外	男性	度数	26	54	80	
		q1[性別] の %	32.5%	67.5%	100.0%	
	女性	度数	50	23	73	
		q1[性別] の %	68.5%	31.5%	100.0%	
	合計	度数	76	77	153	
		q1[性別] の %	49.7%	50.3%	100.0%	

p<.001

女性は男性に比べて現役生が多い結果だった。第一志望以外の現役生は、男性は32.5%、女性は68.5%と第一志望以外でも女性は現役で大学を志望するのではないだろうか。また第一志望でないことは入学後の学習や生活に影響を与えているだろうか？なお、二浪以上の女性は一人もいないという結果だった。女性は男性に比べ浪人する人が少ないという結果であった。

では、志望順位別にみた場合、性別と自宅から通えるかどうかは関係するのだろうか。203ページの上の表からわかるように、第一志望の自宅生は性別にあまり関係なく、下宿生よりも多い結果となった。また、第一志望の女性は下宿生よりも自宅生が多く、また男性はほぼ半数ずつであった。女性の方が、自宅生が多い傾向がある。それは、女性の方が自宅から通える距離というのが志望動機の一つだからではないだろうか？また家族が女性の一人暮らしに反対するとも考えられる。しかし、第一志望以外の場合は、男女とも自宅生よりも下宿生ほうが多い結果となっている。これは、第一志望の場合と異なる点である。

もうひとつ、大学に入学する前の成績を性別で比較しよう。入学前の成績を見ると、女性の方が男性よりも上の方であったと思っている。女性は成績が「上のほう」から「下のほう」にかけて右肩下がりに人数が

減少している。一方、男性は「中ぐらい」・「中の上」が多く、女性に比べ分散しているといえる。(203ページの下の表を参照。)

q1[性別] と q18[自宅・下宿の別] と q4[志望順位] のクロス表

q4[志望順位]				q18[自宅・下宿の別]		合計
				自宅	下宿	
第一志望	q1[性別]	男性	度数	52	51	103
			q1[性別] の %	50.5%	49.5%	100.0%
		女性	度数	90	43	133
			q1[性別] の %	67.7%	32.3%	100.0%
	合計		度数	142	94	236
			q1[性別] の %	60.2%	39.8%	100.0%
第一志望以外	q1[性別]	男性	度数	32	50	82
			q1[性別] の %	39.0%	61.0%	100.0%
		女性	度数	34	38	72
			q1[性別] の %	47.2%	52.8%	100.0%
	合計		度数	66	88	154
			q1[性別] の %	42.9%	57.1%	100.0%

第1志望のみ p<.01

q1[性別] と q9[高3時の成績] のクロス表

		q9[高3時の成績]					合計	
		上のほう	中の上	中ぐらい	中の下	下のほう		
q1[性別]	男性	度数	39	40	43	27	37	186
		q1[性別] の %	21.0%	21.5%	23.1%	14.5%	19.9%	100.0%
	女性	度数	63	55	53	22	16	209
		q1[性別] の %	30.1%	26.3%	25.4%	10.5%	7.7%	100.0%
合計		度数	102	95	96	49	53	395
		q1[性別] の %	25.8%	24.1%	24.3%	12.4%	13.4%	100.0%

p<.01

1.2 大学在学中

次に大学学生時代について分析していきたいと思う。ここではアルバイトの経験やGPAの成績など、学生生活において活動に何か性別による違いはあるのだろうか？

まず、性別とGPAのクロス集計をみる。

q1[性別] と q7[GPA] のクロス表

		q7[GPA]				合計	
		2.00未満	2.00～2.49	2.50～2.99	3.00以上		
q1[性別]	男性	度数	56	61	41	21	179
		q1[性別] の %	31.3%	34.1%	22.9%	11.7%	100.0%
	女性	度数	18	46	54	81	199
		q1[性別] の %	9.0%	23.1%	27.1%	40.7%	100.0%
合計		度数	74	107	95	102	378
		q1[性別] の %	19.6%	28.3%	25.1%	27.0%	100.0%

p<.001

男性より女性の方が、GPAが高いという結果となった。男性はGPA2.00～2.49が一番多く、山なりのグラフの結果となった。また、女性はGPA3.00以上の方が一番多く、右上がりのグラフが描ける結果となった。

では、高校時代の成績と大学の成績に相関関係はあるのだろうか？性別に検討する。クロス集計の結果からわかったことは、女性は高校3年生の時の成績と大学4年間の成績が、男性に比べると一致する確率が高いことである。(205ページの表を参照。)

次に、在学中のアルバイトは男性と女性で何か違いがあるだろうか？性別とアルバイトに関する質問の多重クロス集計をとると、継続性でやや女性が上回るものの、男女ともほとんどの学生がアルバイトを経験していることがわかった。他方で、仕事の内容別にみると、接客や販売については女性の8割以上が経験していて、男性よりも多いこと、逆に全体の数は少ないものの運送や軽作業は男性の方が多く経験していることがわかる。(206ページの上の表を参照。)

さらに、性別だけでなく、自宅生か下宿生かも加えた、3重クロス表を出して、アルバイト経験の違いを検討してみよう。(206ページの下の方の表を参照。)まず、継続性という点でみると、女性はそれほどの差はないが、男性の場合は自宅生の方がやや長く、しかも同じところでアルバイトを続けていることがわかる。しかし、同志社大学は2回生・3回生で今出川キャンパスへの移動があるため、下宿生が必ずしもアルバイトが続かないとは言いきれない。これは下宿生とは異なり、自宅生は学年が変わっても住んでいる場所が変わらないという事も影響しているのではないだろうか。

また、仕事内容に自宅・下宿で違いが出ないかみると、接客や販売については下宿生の方が経験している

割合が高かった。反対に塾講師や家庭教師の経験についてみると、明らかに自宅生の方が高い。これは、継続して働いたり、自宅生のほうがアルバイト先の情報が地域で得やすいという理由があるのかも知れない。

q9[高3時の成績] と q7[GPA] と q1[性別] のクロス表

q1[性別]		q7[GPA]				合計	
		2.00未満	2.00～2.49	2.50～2.99	3.00以上		
男性	上のほう	度数	8	12	11	6	37
		q9[高3時の成績] の %	21.6%	32.4%	29.7%	16.2%	100.0%
	中の上	度数	8	12	12	7	39
		q9[高3時の成績] の %	20.5%	30.8%	30.8%	17.9%	100.0%
	中ぐらい	度数	13	19	5	4	41
		q9[高3時の成績] の %	31.7%	46.3%	12.2%	9.8%	100.0%
	中の下	度数	10	8	6	2	26
		q9[高3時の成績] の %	38.5%	30.8%	23.1%	7.7%	100.0%
	下のほう	度数	16	10	7	2	35
		q9[高3時の成績] の %	45.7%	28.6%	20.0%	5.7%	100.0%
合計		度数	55	61	41	21	178
		q9[高3時の成績] の %	30.9%	34.3%	23.0%	11.8%	100.0%
女性	上のほう	度数	0	16	15	32	63
		q9[高3時の成績] の %	.0%	25.4%	23.8%	50.8%	100.0%
	中の上	度数	3	6	16	28	53
		q9[高3時の成績] の %	5.7%	11.3%	30.2%	52.8%	100.0%
	中ぐらい	度数	8	15	14	12	49
		q9[高3時の成績] の %	16.3%	30.6%	28.6%	24.5%	100.0%
	中の下	度数	5	5	5	3	18
		q9[高3時の成績] の %	27.8%	27.8%	27.8%	16.7%	100.0%
	下のほう	度数	2	4	4	6	16
		q9[高3時の成績] の %	12.5%	25.0%	25.0%	37.5%	100.0%
合計		度数	18	46	54	81	199
		q9[高3時の成績] の %	9.0%	23.1%	27.1%	40.7%	100.0%

女性のみ p<.01

q1*\$q19 クロス表

		アルバイト経験					合計	
		q19a [2年以上]	q19b [1年以上]	q19c[接 客・販売]	q19d[運送 ・軽作業]	q19e[塾・ 家庭教師]		
q1[性別]	男性	度数	147	142	107	20	49	160
		q1 内での割合 (%)	91.9%	88.8%	66.9%	12.5%	30.6%	
	女性	度数	178	176	154	5	55	187
		q1 内での割合 (%)	95.2%	94.1%	82.4%	2.7%	29.4%	
合計		度数	325	318	261	25	104	347

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。 a.2 分グループを値 1 で集計します。

q18*\$q19*q1 クロス表

q1[性別]		アルバイト経験					合計	
		q19a [2年以上]	q19b [1年以上]	q19c[接 客・販売]	q19d[運送 ・軽作業]	q19e[塾・ 家庭教師]		
男性	q18[自宅 ・下宿]	自宅 度数	78	77	53	6	32	83
		q18 内での割合 (%)	94.0%	92.8%	63.9%	7.2%	38.6%	
	下宿	度数	69	65	54	14	17	77
		q18 内での割合 (%)	89.6%	84.4%	70.1%	18.2%	22.1%	
合計		度数	147	142	107	20	49	160
女性	q18[自宅 ・下宿]	自宅 度数	112	109	93	4	37	115
		q18 内での割合 (%)	97.4%	94.8%	80.9%	3.5%	32.2%	
	下宿	度数	66	67	61	1	18	72
		q18 内での割合 (%)	91.7%	93.1%	84.7%	1.4%	25.0%	
合計		度数	178	176	154	5	55	187

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。 a.2 分グループを値 1 で集計します。

1.3 大学卒業後

卒業後の働き方には、どのような男女差があるのだろうか。総合職は女性よりも男性の方が多く、一般職は女性の方が多というのは正しいのだろうか？

q1[性別] と q26_1[採用コース] のクロス表

		q26_1[採用コース]			合計	
		総合職	地域限定総合職	一般職		
q1[性別]	男性	度数	123	1	4	128
		q1[性別] の %	96.1%	.8%	3.1%	100.0%
	女性	度数	89	11	30	130
		q1[性別] の %	68.5%	8.5%	23.1%	100.0%
合計		度数	212	12	34	258
		q1[性別] の %	82.2%	4.7%	13.2%	100.0%

p<.001

上の表を見ると、圧倒的に男性の方が全国転勤もある総合職の割合が多かった。しかし、男性でもわずかながら一般職や地域限定総合職の人がいることが分かる。女性は男性と比べ、総合職も約7割いるが、地域限定総合職や一般職の割合も多いと言えるだろう。これを見て女性は就職する際に勤務地にこだわるのだろうかという疑問がわく。自宅生が多いという結果もあるが、それとの関連性があるのだろうか？

次に地域条件や仕事と余暇のバランスなど、働く上で仕事とプライベートにおいて男性と女性ほどどのように異なるかについて分析していく。まず、就職先の企業の環境について検討してみよう。

q1*q26_4 クロス表

		企業の環境 ^a			合計	
		q26_4a[東証一部上場]	q26_4b[住宅・資格の手当てが充実]	q26_4c[育児休暇がとりやすい]		
q1[性別]	男性	度数	72	116	85	130
		q1 内での (%)	55.4%	89.2%	65.4%	
	女性	度数	76	111	120	142
		q1 内での (%)	53.5%	78.2%	84.5%	
合計		度数	148	227	205	272

パーセンテージと合計は応答者数を基に計算されます。 a.2 分グループを値 1 で集計します。

全体的に男性・女性も育児休暇が取りやすい職場を選択している人が多い結果になった。最近、様々な企業がワーク・ライフ・バランスに取り組んでいるので、その影響がこの結果に関わっているといえるのではないだろうか。ただし、女性の方が育児休暇がある企業をより選んでいることも上の表から分かる。

1.4 考察

以上の分析結果から、これらを詳しく考察していく。

一つ目に分かったことは「大学入学前」において女性の現役生が多く、男性の方が一浪・二浪以上をしている人が多いということだ。また二浪以上の女性は一人もいない結果となり、女性は男性に比べて浪人する人が少ないと分かった。これは女性の高校三年生の成績の高さも影響しているといえる。また女性においての大学選択は自宅から通える事が志望動機の一つに含まれている事が考えられる。

二つ目は、学力における違いである。まず高校三年生の成績と大学時代のGPAを見る。女性は高校三年生の成績が上の方から下の方にかけて右下がりになっている。また、GPAも1.00未満から3.00以上にかけて右上がりのグラフとなっている。これを見ると、女性は高校時代も大学時代も成績は男性よりも成績が低い人より成績が高い人が多いことが分かる。また、男性は高校三年生の成績は分散しているが、大学時代のGPAは山型になっている。これより、男性は成績が真ん中ぐらいの人が多いうことが分かった。男性は高校三年生の成績では分散しているが、受験前に勉強して学力が上がったのではないかと考えられる。また、女性の方が継続的にコツコツと学業をおこなうといえるのではないだろうか。

三つ目は、在学中のアルバイトについてである。全体を通して女性は軽作業や運送業よりも接客・販売のアルバイトをしている人が多かった。重い荷物などを運ぶのに女性は適さないのか男性の方が多いう結果となった。

また、自宅・下宿生の違いを見ると、自宅生の方がアルバイトを多くしている結果となった。生活費などの面で下宿生の方がアルバイトをしていると予想していたが違っていた。しかし当時、同志社大学の社会学部はキャンパスの移動があったので、2年以上のアルバイトを続けるのは困難であるともいえる。性別も重ねて見ると、下宿・自宅両方とも男性よりも女性の方が長くアルバイトを続けているという結果となった。

四つ目は卒業後の進路についてである。男女とも全体的に総合職が多いという結果となり、男性にも地域限定職や一般職があることが分かった。また育児休暇がとりやすいかの項目では女性の方が育児休暇を取りやすい企業に行く予定だ。しかし、ここ最近、くるみマークなど企業のライフワークバランスというのが主流となってきているのか男性の就職先でも育児休暇が取りやすい企業が多いという結果となった。